

今冬のボーナスは「減りそう」が5割を超える

～生活費や教育費など家計補填に回される傾向さらに強まる～

【調査結果のポイント】

1. 今冬ボーナスの見通しは、「減りそう」が昨年調査を 19.8 ポイント上回る 52.6% となっており、不況の影響を受け、大変厳しい見通しとなっている。年代別では、20代で一部に明るい見通しが見られるものの、30～50代で「減りそう」との回答が大幅に増加している。家計主（家計を主に支える人）の勤務先別では、民間企業、公務員ともに昨年より厳しい見通しとなっている。
2. ボーナスの使い道は、「生活費の補填」で「増えそう」との回答が昨年より増えた一方で、「預貯金」、「旅行・レジャー」などで「減りそう」が増加しており、ボーナスが家計補填に回される傾向はさらに強まっている。

【調査概要】

調査時期：10月21日～11月2日

調査対象：熊本市内在住の女性 500人

調査方法：郵送

「第22回消費予報調査」の一部として実施
有効回答数：234（有効回答率 46.8%）

同調査で「ボーナス有り」と回答した人

回答者の属性

（1）年代別

	人数	割合
20代	35	15.0%
30代	73	31.2%
40代	56	23.9%
50代	59	25.2%
60代	11	4.7%
全体	234	100.0%

（2）世帯主の勤務先別

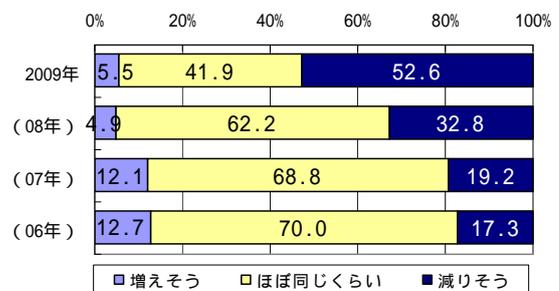
	人数	割合
民間企業	172	73.5%
うち県外企業	55	23.5%
うち県内企業	117	50.0%
公務員	44	18.8%
その他	18	7.7%
全体	234	100.0%

1. 今冬ボーナスの支給予想

今冬のボーナス支給の見通しについて尋ね

たところ、「増えそう」は5.5%で昨年調査を0.6ポイント（以下、p）上回るにとどまり、「ほぼ同じくらい」が41.9%となっている（図表1）。一方、「減りそう」は昨年を19.8pも上回る52.6%と半数を超えており、今冬のボーナスは大変厳しい見通しとなっている。

図表1 今冬ボーナスの支給予想



2. 年代別支給予想

年代別では、30～50代で「減りそう」が昨年より大幅に増加しており、特に40～50代では6割を超え、大変厳しい様子がうかがえる（次頁図表2）。ただし、20代は「減りそう」（31.4%）が昨年より7.5p増加している一方で、「増えそう」（20.0%）も11.3p増加しており、一部に明るい見通しが見られる。

3. 家計主の勤務先別支給予想

家計主の勤務先別にみると、不況の影響で民間企業の見通しは厳しく、県外に本社をおく民間企業は「減りそう」が昨年の30.2%から22.5pも増加し52.7%、県内企業も10.8p増の45.3%となっている(図表3)。

また公務員については、民間企業の給与水準が下がったことを受け、人事院及び熊本県・市の人事委員会が、6年ぶりに月給とボーナス(期末・勤勉手当)の同時引き下げを勧告し、ボーナスについては年間引き下げ幅が過去最大となることから、「減りそう」との回答が79.5%(+50.2p)と民間企業以上に大きく増加している。

4. ボーナスからの支出予定[複数回答]

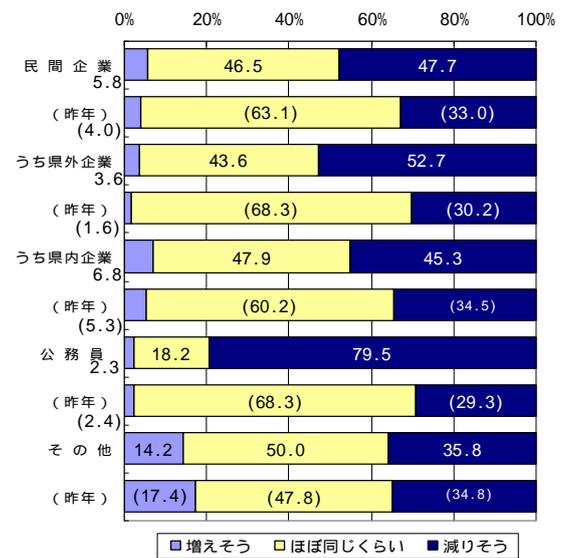
ボーナスからの支出予定について尋ねたところ、「買物」(93.2%)との回答が最も多く、次いで「預貯金」(91.0%)、「交際費」(88.5%)などが続いている(図表4)。

昨冬ボーナスより支出額が「増えそう」との回答が多い項目は、「生活費の補填」(34.2%)、「教育費」(25.2%)などで、その割合は昨年調査を上回っている。また、支出

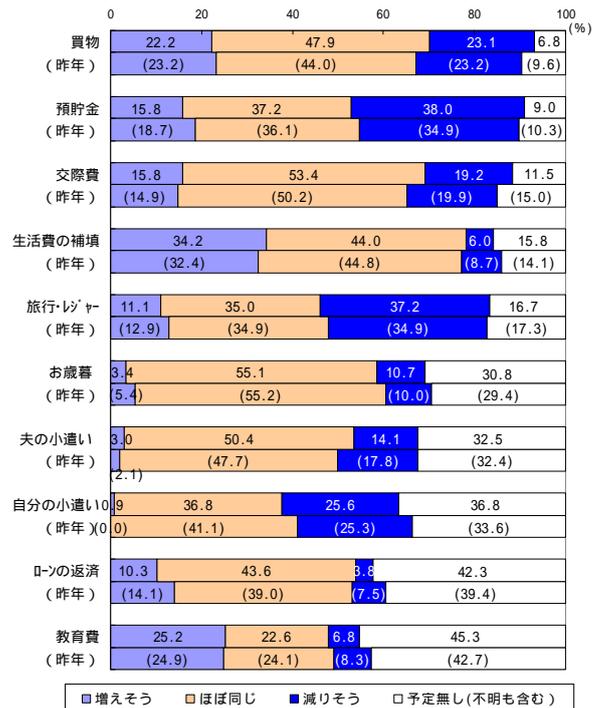
額が「減りそう」との回答が多い項目は、「預貯金」(38.0%)、「旅行・レジャー」(37.2%)などで、こちらも昨年調査を上回っている。

このように、ボーナスが家計補填に回される傾向はさらに強まっており、今冬のボーナス商戦の厳しさは増すものと思われる。

図表3 ボーナスの支給予想(勤務先別)



図表4 ボーナスからの支出予定[複数回答]



図表2 ボーナスの支給予想(年代別)

